

第1部 砂漠にうまれた奇跡の文明 ナスカ

南米ペルーの人気世界遺産ナスカ。この砂漠の都には正式な参拝路があったという。その中心地、カワチ遺跡の巨大ピラミッドからナスカ平原を望むと、人々がなぜ地上絵を描いたのかを知ることができる。これまで誰も語らなかった驚愕の事実を、天野博物館事務局長の阪根博が語り尽くす。

阪根博（写真右）プロフィール

1948年生まれ。東京都出身。早稲田大学教育学部卒業後、ペルーに移住。祖父の天野芳太郎氏が創設した、天野博物館の仕事を手伝う。ペルー屈指の文化研究家となった現在は、約5000年前のシクラス遺跡を発掘するかたわら、天野博物館の事務局長として運営に携わる。また政府要人、経済人、マスコミ取材、テレビ制作に同行する。武蔵野美術大学招聘教授。早稲田大学エクステンション講座講師。

第2部 祝！世界遺産登録 ナミブ砂漠の神秘

アフリカ大陸で最も美しいといわれるナミブ砂漠。アプリコット色の砂、枯れたアカシアの木々。朝日が重なるとまるで絵画のような風景がそこにうまれる。乾燥した大地で2000年も生きる植物ウエルウィッチア、世界で二番目の大きさを誇るフィッシュリバーキャニオン、そこに生きる野生動物を豊富な写真とトークで紹介する。

野村哲也（写真左）プロフィール

1974年生まれ。岐阜県出身。高校時代から山岳風景や野生動物を撮り始め、“地球の息吹”をテーマに、アンデス、南極、パタゴニアなどに被写体を求める。渡航先は91か国に及び、秘境のツアーガイドやテレビ番組の制作に携わる。

著書「PATAGONIA」「ペンギンがくれた贈り物」（風媒社）、「砂漠の花園」「僕のデナリ国立公園ガイド」（福音館書店）、「パタゴニアに行く」「世界の四大花園に行く」（中央公論新社）など多数。

HP www.gacierblue.org



2012年 砂漠の花園にて

会場：TKP 博多駅前シティセンター・ホールC

日本生命博多駅前ビル 8F JR 博多駅博多口方面徒歩2分

